

平成 27 年度 国立中央青少年交流の家
富士のさと ボランティア養成研修

子どもの体験活動を支援するリーダーへ

平成 27 年 6 月 27 日（土）～6 月 28 日（日） 1 泊 2 日

○目的

青少年の体験活動を支援するボランティアに求められる知識・技能を習得するとともに、ボランティア活動の意欲を高める。

○参加者

自然体験活動やボランティア活動に興味・関心のある大学生，社会人

計 65 名（内訳：男性 27 名，女性 38 名）



○事業の内容

（1）「ボランティア活動の実際」

担当：主任企画指導専門職 吉野 達也
事業推進係 和泉 友喜

はじめにアイスブレイクゲームを通して身体と心の緊張をほぐしました。その後、当交流の家の教育事業を紹介しボランティア活動の意義や必要性について理解を深めました。



（2）「子供たちの“いま”を知ろう」

担当：常葉大学短期大学部准教授 遠藤 知里

対象者の特性を理解するために、自分の子供の頃を思い返しながら、今の子供の“好きなこと”“いいところ”“足りないところ”を話の糸口に子供の現状や課題について考えました。



（3）「野炊の王道：カレーライスをつくろう」

担当：企画指導専門職 館 健一

安全に野外炊事を指導するための知識や技能を実際にカレーライスを作りながら身につけました。火付けに苦勞するグループもありましたが、グループ活動の面白さも同時に味わいました。



(4)「みんなでキャンプファイアーを創り上げよう」

担当：サポートボランティア

参加者に楽しんでもらおうとサポートボランティアが企画から担当しました。事前より準備を進めていた楽しいゲームによって大いに盛り上がりました。参加者にとってはよい交流の時間となりました。



(5)「安全管理と応急処置を学ぼう」

担当：フジ虎ノ門病院 看護部長 渡辺みゆき
事業推進係 望月 奏

前日の野外炊事の場面をふりかえりながら安全管理について、どのようなことに気をつけるべきかを考えました。その後、よくおこる傷病を取り上げ、その対応について実習を通して学びました。



(6)「リーダーの役割と心構えを考えよう」

担当：サポートボランティア

子供役とスタッフ役に分かれてキャンプ中の具体的な場面を設定し、子供の気持ちを考えながら支援者としてどのような対応ができるのかロールプレイを通して学びました。



《参加者の感想》

- ・ 初めての経験や新たな出会いを通して、自分の幅を広げられたように感じました。また、ここでの学びを次の活動へつなげていきたいと強く思いました。
- ・ プログラムの中にはボランティアが企画や進行している部分もあり魅力を感じました。またその熱いエネルギーにとっても刺激を受け、自分もやってみたいと思いました。
- ・ 就職は教育関係の仕事を考えていたので、参考になることが多かったです。また学生だけでなく、社会人の方とも話すことができ充実した時間となりました。

《成果と課題》

- 子供の体験活動を支援したことのある経験を積んだボランティアが、運営スタッフの一員として関わることによって、これまでの経験を参加者により具体的に伝えることができるようになり、今後の活動に向けてよい動機付けになった。
- 修了後すぐに9月と2月に開催される「富士のさと わくわくキャンプ」の企画メンバーに立候補する参加者もあり、次の活動へ意欲の高まりが見られた。
- 養成研修を修了したボランティアが活躍できる機会を積極的に生み出すとともに、継続的に活動をすることができる仕組みをより充実させていく必要がある。そのためにも活動回数だけでなく、ボランティア受入のあり方についても今後検討する。